令和４年度　（一社）犬山祭保存会理事会　第２回　議事録

●日時

令和４年９月１７日（土）　１９：００～２０：３０

●場所

IMASEN 犬山からくりミュージアム玉屋庄兵衛工房　２F

●出席者（敬称略）

【常任理事】会長（石田）、会長代行（多和田）、副会長（澤野、小林、長谷川）、会計（下山）、財務委員長（今井）、伝統文化委員長（市橋）、伝統文化副委員長（長井）、てこ委員長（浅野）、てこ副委員長（吉田成伸、陸浦）、企画広報委員長（松田）、企画広報委員長代行（斉木治郎）、企画広報副委員長（柴田、林）、からくり文化振興部長（加藤）

【理事】枝町組理事（武藤）、魚屋町組理事（小川）、下本町組理事（松岡）、中本町組理事（栗谷）、熊野町組理事（浅野）、新町組理事（坪内）、本町組理事（安田）、練屋町組理事（小島）、鍛治屋町理事（市橋）、名栗町組理事（森）、寺内町理事（三輪）、余坂組理事（藤澤）、外町組理事（伊藤）、内田町組理事（若山）
【企画広報委員】斉木美加、前田、吉田昌司、梅田
【犬山市】歴史まちづくり課（加藤課長、市野主査）、経済環境部（中村部長）、観光課（小池課長、小林主事補）
【その他】名古屋大学市史編纂委員（山中）、観光協会（後藤）、保存会事務員（竹村）

●議事

Ⅰ．①会長挨拶　②報告事項
Ⅱ．議題

① 秋の祭事について（１０月２２日・２３日）
② 次世代育成事業　１０月２９日（土）企画広報委員会

③ 愛知県山車祭り保存協議会総会　１０月１日（土）

④ 北小ＰＴＡより

⑤その他

●配布資料

① 秋の催事について

② 各町内運行路

③ タイムスケジュール案

④ 秋の催事予算案

⑤ 令和４年　秋の催事における「新型コロナウイルス感染症拡大防止策のお願い」

⑥ 秋の催事　タイムスケジュール

⑦ 愛知県内の秋の山車祭状況

⑧ 第２０回愛知山車祭り保存協議会総会のご案内

⑨ 秋の全国交通安全運動行事へのご参加依頼（お願い）

●議事内容

Ｉ．会長挨拶

・会長：秋のからくり町巡りの最終的な打ち合わせをお願いしたい。私からの報告として、大学で祭とコミュニティの研究所の所長をやっているため、色々なところから祭の話をしてほしいという要請があり各地の祭りを見に行っている。

先日、能登半島のキリコ祭りに行った。これは能登半島の各自治体で２００カ所近くにわたってやっている。お盆や秋祭りの行事という位置づけで、軒並みやっている。能登半島の先の珠洲市という一万人ほどの町の、２００カ所のキリコ祭りで一番大きいものを見た。１０時に神社に集まる。１５メートル以上のキリコで、夜中に各町内を回り、明け方の７時に朝日が日本海から出てくるところがクライマックスである。皆さん、夜明けが一番つらいと言っていたが、２，３日休むとまた来年やりたくなるということで、祭には不思議な力があると感じた。

この祭は、お客さんは皆さん車で来る。その際の交通整理は町内の人でやっている。40 軒ほどの漁村で、４つくらいのキリコを持っている。私が見に行った時、目の前で、若衆と観光客が喧嘩をやりだした。そうすると長老が飛んできて、すぐに喧嘩を抑えてしまった。こういった場合でも警察や行政には一切頼らないし、市か

らの補助金も受けていないということだった。コロナの支給金もぜんぶ祭に回しているとのことだった。

キリコを収納する倉庫が非常に立派なものが神社の境内にある。その立派な建物は原発のお金で中電に作ってもらったものということだった。

能登半島の２００のキリコのそれぞれの保存会には横の繋がりはなく、やり方も考え方もバラバラである。犬山の祭は江戸時代の頃から都市型である。能登の祭はいわゆる農村漁村の祭りで、発生の時から形が違うので同じに考えることはできないが、祭人の情熱は伝わってきたし感銘を受けた。一宮の七夕まつり、安城の七夕まつりも全然違っており、行政や商工会議所丸抱えのものである。色々な祭があるが、犬山祭は犬山祭ならではの伝統を背負いながらこれからもずっと持続しつつ脱皮していく部分も大事ではないかと思う。

今年の秋の催事も、犬山祭の長い伝統を絶やさないための犬山祭の中に含まれた一行事として考えていただいた上でご支援ご協力いただけたらと思う。

・会長代行：犬山氏史編纂のご協力の依頼として、編纂委員の名古屋大学の山中さんがおみえになっているので、お話していただく。

・編纂委員：このたび、市の公共事業として犬山の市史編纂事業を行うこととなり、その中で、犬山祭がどのような問題に取り組んでいるか、ということも含めてやっていく。

大学でからくりの研究をやっているので、各町内の山車やからくりの編纂も行っていく。今後、皆様に調査のご依頼等させていただくので、ご協力おねがいいたします。

・専務理事：山中先生は犬山じゅうの市史編纂をしてらっしゃる。全てのジャンルについての編纂をされるので、犬山祭はそのうちの１つだがしっかりやっていただきたい。

それに合わせ愛知大学の佐藤先生が、３、４年前に本館で聞き取り調査をしていただいたが、その流れで愛知大学の学生を連れて本日南館にいらっしゃった。今度の町巡りも調査したいとのことなのでまたご協力お願いしたい。

Ⅱ．議題

① 秋の催事について（１０月２２日・２３日）

・会長代行： 秋の催事が２２，２３日ということで、企画広報委員長から報告していただく。

・企画広報委員長：２２日は今のところ、熊野、余坂、寺内の三町内の方が車山を出していただけるとのことなので、その方向で進めていきたいと思っている。犬山市観光課にもご協力いただき、看板設置やガードマン配置についても話が進んでいる。警察からも、春の祭の時以上のことで無ければ良いということで承諾はいただいている。事務的な進行状況としては、警察に最終的な規制のお願いをしていくことで、行事が可能に成っているという状況。車山巡行の案については伝統文化委員会とてこ委員会とで協議して最終決定する。

熊野町の運行案について。交通規制は犬山駅前通りから鍛治屋町の交差点まで。自主警備で、短時間で動くということになる。駅前通りから北側が範囲内になる。規制をとれる範囲は４時まではとれるのでその中で時間について決定していく。

余坂について。午前中に町内を回るということで調整を進めている。車山にからくりを乗せるかとどうかはご町内でご判断していただきたい。

警察からガードマンを置いて欲しいと要請されているポイント以外は、我々の自主警備を行った上で、祭を盛り上げていく。今後てこ委員会と協議して自主警備のお願いをするのでよろしくお願いしたい。

２３日について。これも伝統文化委員長から説明があるが、からくり町巡りということで、これまでは伝統文化の継承という意味で二日間開催だったが、今年は一日で、例年通り、披露する時間を決めてその時間に行って頂きたい。それ以外の時間に行って頂く事も可能。車山からからくりを降ろして演台でやるということで、観客に間近に見ていただくという機会はないので、車山からおろして披露していただきたい。場所については今仙電機、からくり館、どんでん館、余遊亭、熊野神社、各町内車山蔵前となる。よろしくお願いしたい。

・てこ委員長：熊野町について、てこの人数が少ないため本町交差点は厳しいので鍛治屋町の交差点を出入りした方が、規制の面においてもいいのではないかと考えて

いる。余坂について。春と同じように小島橋の間は一般車両を通していただく。車山が小島橋から出てきたら車を止める。そのように対応していただきたい。
寺内は来週お返事をいただけるということで、規制区域内で自由に動けるようにしていただく。

・余坂町：てこが少ないので、これだけ回れるかどうか分からないため、来週ごろに返事する。

・会長：町内でてこが足らない場合は、てこ委員会で会員会費制を取り入れたのだから、てこ委員会全体で助けるということはできないのか。犬山祭のてこをやりたい人もいるので、機会を作ってやってもらうということを、新しいやり方として徐々にやっていきたい、従来のように町内だけで判断するのではなく委員会で考えてみていただきたい。みなさんで協力し合ってやっていくということである。

・伝統文化委員長：からくりのスケジュールについて。タイムスケジュール案ということで、１０月１日に伝統文化委員会を行い、細部を決めさせていただく。本日いただいたご意見と、伝統文化委員会の会合の中で変わってくるかもしれないが、現在の案として説明させていただく。２日目は、例年と同じように今仙電機でオープニングセレモニーを行う。会長や来賓の方のご挨拶や、玉屋庄兵衛さんの座敷からくりの実演と説明をしていただくという計画をしている。今仙電機についてはからくりミュージアムのネーミングライツ等ご協力もいただいているのでオープニングは今仙研究所で行う。その後、町に向かっていくということで、１０時２０分ごろから各地で披露する。どんでん館では、鍛治屋町・下本町は演台で行う。スペースを考えると、中本町と名栗町はどんでん館の中の車山の上でやっていただくという案である。犬山中学校・犬山高校について、からくり文化振興部長と相談させていただき、場所の関係、どんでん館で鍛治屋町下本町が終わってから横の方で舞台を作るという調整もあるため、後ほど打ち合わせをさせていただきたい。１６時までには全町内のからくり町巡りの終了となる。車山の上でからくりをするのも方法の１つだが、からくりを近くでお客様に見ていただきたいということで、できるかぎり各町内には演台で行って頂きたい。
スケジュールについて。今仙電機に近い方からスケジュールを組ませていただいた。同時カ所は、続けて行って頂きたい。例えば寺内町の後の枝町という場合、一町内の披露が各車山の説明を三分程度にお願いしたい。からくり実演は、長くても１５分くらいとなって、全部で２０分以内でからくり披露と説明を終わって頂き、

場所移動に２０分ほどかかるということで、約３０分刻みで組んでいる。どんでん館については同じ場所なので、２０分間隔で予定している。同じ場所は続けて実演していただきたい。実演は何度披露して頂いてもいいが、スケジュールの実演開始時間だけは守って頂くようお願いしたい。
規定時間以外はお子さんの演奏はご町内で披露していただくということは可能なので出来る限り楽しんでいただけるように行っていただきたい。
オープニングから少しでも回れるように配慮し導線を考えている。
小太鼓、笛、お囃子の演奏台について。昨年はどんでん館の中にある台を使ったことがあるが、今年は一日でやるので、スケジュールも重なっているため、からくりの前に、毛氈を曳いていただき、そこに座布団を置いて対応していただきたい。どんでん館は、演奏の間に場面転換をするということで、振興部と相談して場所の設定の打ち合わせをしていきたい。そういったスケジュールで考えている。伝統文化委員会でも話を詰めて、手直しがあるかもしれないが、本日の案としては以上である。

・専務理事：予算案について。車山を出す町内は出展料が一町内３万円となる。前例にのっとった措置である。草鞋は町内で払って頂き、後に４５万の予算から賄われる。
23 日のからくり町巡りのからくり出展料が１町内３万円となる。会計と相談して了解はいただいている。
保険について。なるべく自分達でやろうということで、保険料はすべて保存会で負担をする。傷害保険は参加者の保険で、従来の春の祭礼の時の、てこの上乗せ保険の担保内容。それぞれ大変高額の補償である。
賠償責任保険は観客のものとなる。慣例によれば観光課が負担するが、秋の催事には予定されていないということである。賠償責任保険がないと警察の許可がでない。観客に事故があった場合、車山やからくりを行う主催者の責任に帰すという条件がある。一名５０００万、一事故２億と大変高額である。

・企画広報副委員長：コロナ対策について。みなさんの安心安全を考えてコロナ対策を皆さんに実施して頂いてご協力をお願いする予定。１０月８日時点の状況を見てコロナの収束状況を見て、簡略できるところはしていく。飲食はアルコールは厳禁という形にしていたき、健康を守って頂くようにご協力をお願いしたい。

・企画広報委員長：今後のタイムスケジュール案について。本日が理事会となり、この後てこ委員会で協議をしたうえで、伝統文化委員会も同様に最終的な協議をしてからくり町巡り案を決定する。その中で、もういちど合同委員会を開催する。コロナの状況を見ての最終決定を行う。
先程の車山運行の説明について。今回は本町の交差点までということでお願いしたい。針綱神社まではいけない、大手門までということである。
今回は三委員会で話し合ったことだが、来年以降も皆さんとご協議をお願いしたい。
・会長代行：企画委員会との兼ね合いもあるので、市の観光課にもお話していただく。
・観光課：今回、秋に車山を出されるということで、私は企画委員会の事務局長という立場となる。松田委員長も含めて打ち合わせをさせていただき、調整させていただいている。役割分担や人数については自主事業ということであるが、市が何もしないというわけではなく、お力にさせていただける部分はご協力していきたいと思う。よろしくお願いします。
私の理解では、犬山祭の車山の運行や祭礼は保存会で、それ以外の警備や宣伝、仮設トイレ設置等といったものは企画委員会が全体的にコントロールさせていただく。秋は警備といったことになる。２３日はからくり町巡りなので従来通り企画委員会としてやらせていただく。
・専務理事：企画委員会について。保存会の企画委員会ではない。犬山祭企画委員会とは４団体から構成されている。保存会、JC、観光協会、犬山市である。春の犬山祭はこの４団体が主催者であり、秋の町巡りの主催も、この企画委員会である。それぞれに役割分担がある。保存会の石田会長は、犬山祭企画委員会でも会長である。観光課長が事務局長で、専務理事の私は事務局次長となる。
・観光課：祭礼の部分と車山の部分は祭保存会で、全体としては、警察への届け出などの対外的なことは企画委員会として提出をする。取材があった時などには、犬山祭保存会として祭礼を実施しましたということになるので、そういう意味では保存会となる。警備などは、企画委員会ということで理解している。
・専務理事：道路の使用許可については保存会と企画委員会の両名で出している。役割分担はあるが、同じ共同体である自覚が足らないのではないか。

・観光課：車山の運行があり、警備があり、連名で出すというのは整合が取れていると思う。
・会長代行：本質的には同じことだと思うので、話し合っていただければと思う。また打ち合わせさせていただく。
・雨天の場合はどうなるのか。
・会長代行：雨天でもからくり町巡りについては、建物の中でやれるところはやる。
・伝統文化委員長：車山蔵の中や、その中の車山の上でやるという場合もある。どんでん館だと二町内が外でやるということになっているが、どんでん館の車山の上でやるという場合もある。
本町と新町の二町内についてはからくり館前でやっていただく予定だが、雨天の場合はからくり館の中でやっていただく。中学高校についても、雨の場合は中でやっていただく。そのように、各ご町内で雨天時でもやれる場所があると思うので、そちらでやっていただく。やれる場所がないというのであれば、ご相談に乗らせていただく。
・２２日の交通規制について。春の祭と同じレベルの規制なら相当な周知の徹底が必要。当町内は行わないので車を動かすこともありうるが、この規制だと車を出せないので、市がこのようにやると言って頂けないと厳しいのでは。
２３日のタイムスケジュールについて。何回かやっていただいて良いとのことだが、ある程度の時間で、二回か三回終わった時点で完了していいのか。
・専務理事：１０月１５日の広報に、交通規制の規制図は各町会長に広報と同時に配布をしていただくということで話をしてある。何も事前通告がないということではなく、また各所に立て看板を立てることも考えてある。交通規制は、春の祭の時と同じレベルである。
２３日について、決められた時間内はやっていただくということで、それ以外は各町内の判断で自由にやっていただく。
・余坂町：車山にからくりを載せて皆でやりたいということで、車山を曳くのが２２日で、２３日のからくり町巡りは遠慮したいと言ってあったが、メンバーに入っていた。車山の上でやりたいという方もいる。二日もやれないということである。
・伝統文化委員長：前の日に車山の上にからくりをやるので２３日はやれない、ということがご町内のご意向ということであれば、スケジュールを変更させていただく。また伝統文化委員会にも出て来ていただいて、全体の流れは聞いていただいた

方が良いかと思うし、こういったご意見があったということを踏まえて再度検討させていただく。

・規制について。三町内が車山を運行されるということで春と同じような規制がかかるということだが、てこさんが足りないということで、規制のかかる町内は、規制図の図面でいうと一部の町内しか回らないのに規制がかかるのは問題があるのではないか。

・練屋町：22 日は神社に集結、もしくは自町内曳き回しと以前の会合であったが、自町内以外にも規制がかかる。市民もすべてが犬山祭を肯定しているわけではない。どうしてこのように変わってきたのか、ということが知りたい。春の犬山祭の時も市の人が面倒を見て、車が出入りできるように駐車場を融通してくださっていた。そういうことも含めて、近くに住む人も、春は祭礼だから仕方ないが、祭でもないのに車山を出して規制しなければならないのか、という人もいるのではないか。もし事故等が起こった時でも、祭だから許されるという部分もあると思うが、そういったことについてのお考えをお聞きしたい。

・会長代行：これは合同委員会で決定した案であり、その上で理事の皆さんのご意見をいただいており、まだ最終決定というわけでもない。三委員会としては、お祭、からくり町巡りといった企画を立てたということである。ご心配なのは交通規制のことであると思うので、十分に配慮してやっていきたい。出していただいた案についても検討していきたい。

・魚屋町：午前中については交通規制の必要はないのでは。

・企画広報委員長：交通規制については当初９時から４時ということで検討させていただいたが、また再度調整の上でご報告したい。

・会長代行：交通規制のことで皆さん心配してらっしゃるので、その点については重々慎重に取り組んでいくということで対応していきたい。

・中本町：からくり町巡りについて、どんでん館の中のからくり台でやるのは問題ないのか。

・伝統文化委員長：台とからくりの演台が同じスペースで、その枠と寸法が同じであれば可能であると思う。

・専務理事：以前はどんでん館の２階からＬＥＤの照明を当ててやっていた。中本町さんと名栗町さんはそういう方向でやったらどうかということである。その方が多くの人に見ていただけるのではないかということである。

・会長代行：本日ご提案いただいたこの企画案で決めさせていただきたい。自主警備など色々な問題が解決されていないので、交通規制についても検討させていただく。１０月８日に最終的な説明をさせていただく。

② 次世代育成事業　企画広報委員会

・企画広報委員長：以前はからくり町巡りの後に次世代育成事業のイベントをやっていたが、今回はコロナのため、犬山中学・犬山高校はからくり町巡りの日に行う予定。犬山中学は、子供達はすごく前向きにやりたいということで、他の場面でも発表の場を作ってあげたいと思っている。今後、からくり文化振興部長とも細かく打ち合わせをしながら進めていく。

③ 愛知山車祭り保存協議会総会　１０月１日

・専務理事：１０月の愛知県内の祭が、コロナを念頭に置きながらほとんどが祭を行う。３年間祭をやっていないので、保存伝承に問題が生じているため、なんとかやっていこうということである。大津祭は平常通りに行う。
１０月１日、愛知山車祭保存協議会が津島で行われる。犬山祭保存会からも出席していただく。

④その他

・専務理事：犬山警察署から、秋の全国交通安全運動行事への参加以来が来ている。例年てこ委員会を中心に参加している。前回も５名ほど参加している。よろしくお願いします。
・副委員長：前回の理事会で犬山北小学校１５０周年を迎えるということでご寄付をお願いした。常任理事の方には是非ご協力お願いしたい。
・会長：皆さんありがとうございました。良いご意見を頂きまして参考となります。各委員長にお願いしているのは、前向きに行こうということである。前向きに祭をとらえないと元気がなくなるのではないか、ということを言っている。各委員長も、積極的に秋のからくり町巡りも企画を立てていただいている。その中で各理事

の方はご町内のご意見を色々調整しないといけない。とても難しい立場だと思うが、率直にご意見を出していただき、その話し合いの中から、色々なご意見を尊重しながら落としどころを決めていきたい。
警察の署長とも話をしたが、犬山祭のことを気にしてくれているし好意的だが、早めに計画を決めてくれないと市民に周知できない、とのことだった。行政も同じで、間際に変更があると行政は対応できない。難しい状況をクリアして、理事会の率直な議論を出していただきたい。町内からも貴重なご意見をいただいたが、祭が好きなお立場からああいったことを言っていただけるのは良い事だと思う。
皆さん、ボランティアとして、地域のために、色々なご意見は遠慮なく言って頂き、その中で、皆で支えていただき一人も落ちこぼれることのないように進めていきたい。

●次回日時

令和４年１０月８日

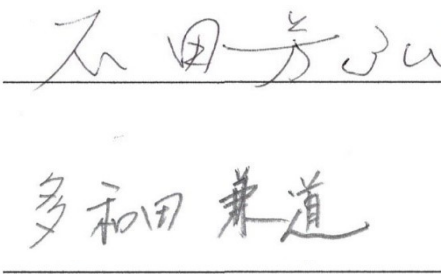
●次回場所

からくり館２階

●記録日

令和４年９月２３日

●記録者

竹村

●署名